

「安全・安心」なまちづくりを目指して

1. はじめに

少子高齢化の進行など社会経済環境が大きく変化する中、岡山市では、恵まれた自然と気候、交通の要衝に位置する優位性、医療・福祉・教育等の分野をはじめとした都市機能の集積など、本市のポテンシャルを最大限に活かし、魅力と活力あふれる都市づくりの推進が重要と考えており、「住みやすさ」「力強さ」「安全・安心」の3つの視点を大切に市民と一緒に考え、一緒に行動しながら、政令指定都市・岡山のさらなる飛躍に向けたさまざまな取組みを進めております。

とりわけ、本年秋に開催される「ESDに関するユネスコ世界会議」は、地域を挙げて、持続可能な社会づくりに向けた新たなESD推進モデルを岡山から世界に発信していく大舞台であり、会議の成功に向けて万全を期してまいる所存です。

また、近年、地球温暖化に伴う異常気象等により、全国各地で大規模な自然災害が発生する中、ハード・ソフト両面からの防災・減災対策とともに、地域の絆を大切に、災害等に対する市民の不安解消や防災意識の高揚にも取り組んでおります。

2. ソフト面を中心とした防災対策

本市における防災対策につきましては、大規模

地震はもとより、浸水対策をはじめ、近年、市内でも頻発している風水害などから市民の命を守るため、橋梁や公共施設の耐震化、河川改修、浸水対策等のハード面での事業の推進に加え、ソフト面の対策の充実が喫緊の課題となっております。

特に、私自身、政府の防災の責任者の一人として、災禍に遭われた方々や地域を目の当たりにしてきた経験から、人命を守ることを最優先に、最悪の被害を想定した災害に強い都市インフラの整備や広域応援体制の整備等に努めていきたいと考えております。

現在、本市では、安全・安心なまちを築くために、以下の取組みを進めております。

①市民への防災情報の提供

まず、市民への情報提供の取組みとして、市の広報紙を通じた啓発や出前講座の開催などに加え、昨年9月には防災マニュアルを作成し、全戸配布しました。このマニュアルには、津波、洪水をはじめ、災害種別ごとの避難所等を書き込んだハザードマップや災害の備えなどの防災知識を掲載しております。

また、小学校区ごとに市民説明会を開催して、地域住民に津波や洪水による影響範囲等についてお知らせするとともに、地域の危険性や避難

岡山市長 おおもり まさお
大森 雅夫



所を図示した小学校区ごとのハザードマップを配布し、災害に備えております。

②備蓄物資の拡充配備

災害弱者に配慮した備蓄品目の見直しや被害想定調査に基づいた備蓄数量の見直しに加え、災害時に迅速に対応できるよう、集中備蓄から分散備蓄にするため、備蓄場所の分散化等に取り組んでおります。

③自主防災会の育成推進

大規模災害発生時においては、地域住民による自発的な救出・救助活動により被害の拡大を防ぐ「自助」の役割が極めて重要であり、自主防災会の結成促進と活動の活性化を図り地域防災力を高めることは、安全で安心なまちづくりの推進に寄与するものと考えております。このため、市民説明会等で自主防災会の重要性を説明するとともに、自主防災会の結成時には防災資材の現物支給を行うなど助成制度も充実させ、組織率の向上に取り組んでいるところです。

④情報インフラの整備

東日本大震災を契機に、市民の津波等への危機感が増している状況を受け、早期避難を指示するためのツールの一つとして、緊急告知FMラジオを活用した緊急情報の告知システムの整

備を進めています。また、災害発生時に迅速かつ的確な対応ができるよう、本庁と各区役所の災害対策本部との通信手段を多重化（無線・有線・衛星通信）するなど、さらなる安全性の向上にも努めております。

3. おわりに

岡山市は、比較的自然災害が少ないと言われており、多くの市民もそれを実感しております。

しかし、今後30年以内に高い確率で発生が想定されている南海トラフ巨大地震をはじめ、大型化する台風、頻発する集中豪雨などから市民の生命・財産を守り、災害に強いまちづくりを進めるため、地域における防災活動の支援や災害時要援護者の避難支援体制の構築など地域防災力の強化に努め、また、訓練等を通じた防災知識・技術の習得など、自らが自らを守る環境づくりを促進することで、安全・安心なまちの実現をめざしてまいります。

※ESD…持続可能な開発のための教育（Education for Sustainable Development）の頭文字を取ったもの。社会の課題と身近な暮らしを結びつけ、新たな価値観や行動を生み出すことを目指す学習や活動のこと。